

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900479		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ船橋		
所在地	千葉県船橋市行田町77番		
自己評価作成日	平成29年9月9日	評価結果市町村受理日	平成30年1月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様が怪我なくのんびり過ごせて遠慮なくものが言える、自分の家みたいな居場所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりのケアプランをバイタル表に綴じ込み職員が常にプランを意識してケアに当れるよう工夫している。ケアマネジャーが「ケース記録」の記入の仕方について実践での研修を行い、職員が気づいたことを「事前聞き取り用紙」に記入してミーティングを行う等職員一人ひとりの気付き能力の向上を図り、「心を一つに、笑顔で思いやりのある介護」との理念の実践に取り組んでいる。ホーム内で計画的に30分研修を行い報告書で成果の確認を行っている。また、本部研修所での実践介護技術研修、オフィサー制度やエルダー社員制度による資格取得など職員育成の体制は整備されており、職員定着に活用していくことが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心をついに笑顔で思いやりのある介護」という理念を面談を通じて、改めて職員で共有し、思いやりのある介護、声かけを行えるよう取り組んでいる。	職員同士が入居者一人ひとりの情報を共有し、入居者本位のケアをチームとして実践するよう努めている。お客様扱いすることなく且、常に入居者への思いやりのある言葉がけを徹底するようにし、「心をついに笑顔で思いやりのある介護」との理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園との交流会、近隣小学校の町探検学習の受け入れを実施している。夏祭り等の施設イベントの際には、ウクレレ演奏やパカ面踊りのボランティアを依頼している。	ホームの夏祭りにはウクレレ演奏やパカ面踊りなどのボランティアに来て頂き近所の子供達も一緒に楽しんでいる。年3回の保育園との交流会では歌や遊戯の披露、塗り絵や折り紙と一緒に楽しんでいる。目の前の小学校の「街探検学習」受け入れも定着化し、登下校時の交流も行われるようになってきている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告を行い、また近隣高齢者の事故対応を行った実績がある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に適切に開催している。挨拶や明るい声かけを徹底すること、駐輪場を確保すること、保育・教育関係者を会議に招致することについて、意見をいただき、取り組んでいるところである。	入居者状況、職員・ヒヤリハット事故等、サービス提供状況や行事報告等を議題として、地域包括支援・在宅介護支援センターの職員、地域民生委員や家族が出席し、2ヶ月に一度定期的に開催している。出席者から毎回多くの意見や要望が出されており検討する等、会議を活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多いことから、船橋市生活支援課への連絡、報告を適切に行っている。施設便りを作成し、地域包括支援センター等へ、空き状況をはじめとした情報提供を行っている。	市の生活支援課、介護保険課、高齢者福祉課や指導監査課との連絡報告をこまめに行っている。地域包括支援センターへは施設便りを作成して置いて頂いたり入居状況の連絡を取り合うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、フロア出入口はオートロックとなっており、また窓の開閉制限をしている。運営規定や重要事項説明書において、原則身体拘束をしない旨を明記し、安心・安楽・安全なケアに取り組んでいる。	毎年、身体拘束や虐待に関する研修を定期的に行い、報告書を提出させ理解の徹底を図っている。日頃の支援の中で、言葉や態度による抑制には職員同士で注意を払い、話し合うようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修を行い、言葉や態度による虐待はないか等と注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護について研修を行い、よりよい支援の必要性を見定めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を読み上げながら、適宜、不安や疑問点がないか確認し、説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会を開催することで、意見、要望を寄せていただいている。またご家族の面会時、ご入居者の様子を報告すると同時に様々な相談をしている。	面会時や運営推進会議の他、毎年家族会も開催しており、家族からの意見や要望をお聞きする機会が多くある。家族会のご家族同士の話し合える場ともなっている。管理者の異動や職員体制、緊急時の対応などのご意見を本部にも上げ、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、改善点の検討等を行っている。口頭での申し送りや管理者に宛てたメモにより、意見や提案を受けることもある。	毎月のスタッフ会議では職員から多くの意見・要望・提案が出されており、収納庫の設置などに反映させている。ホーム内での30分研修のほか本部での実践介護技術研修、オフィサー制度やエルダー社員制度など職員育成の体制は整っており、職員定着に繋がることが期待される。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社事業規定により、定期的に公平な人事評価を行っている。またメンタルヘルスの相談窓口を設置している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの見込みのある社員に対して、管理者候補としてオフィサー制度、OJT指導者としてエルダー社員制度等の受講を推薦し、指名研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社研修では異なる地域やサービスの職員と横のつながりを持つことができる。また社外研修の告知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い、ご本人の言葉を傾聴し、不安や要望をしっかりとサポートする姿勢を伝えることで信頼関係を築くよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談を行い、施設の実績等を踏まえながら、不安や要望をひとつひとつ解決していくことで信頼関係を築くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ内容におけるご本人やご家族の生活状況から必要な支援を見極め、他サービスの利用についても検討するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや野菜の下ごしらえ等の家事手伝いを日常的にお願いしている。またご入居者と職員による共同工作を楽しみながら行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、積極的にご本人の様子を報告・相談し、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊を原則自由としている。ご本人やご家族の希望により、手紙や電話の取次ぎを行っている。	元住んでいた同じマンションの友人やお隣だった方が訪ねて来る。法事で自宅を外泊をしたりお正月に帰宅する。ご家族とお墓参りに行く、毎週コーラスに通う方もいる。手紙のやり取りや子機を使うなど馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度に差があるご入居者達の間で職員が介入することで、和やかに交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の相談に対し、丁寧な支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に聞き取りを行う他、何気ない会話から小さな希望であっても見出すよう努めている。	本人との何気ない会話や家族から聞いた話をヒントに本人の思いを考えている。本人の食べたいものや買い物希望は実現している。アセスメントシートは半年ごとに更新している。ミーティング前に職員が気づいたことを「事前聞き取り用紙」に記入することで、ミーティングに参加できなくとも職員の気づきを共有できている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談を行い、生活歴等について出来る限り情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで過ごしていただき、その中で現状や変化を把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族より要望を適切に聞き取り、また管理者、ケアマネージャーが主体となるカンファレンスを行い、よりよい介護計画を作成するようにしている。	ケアプランを「バイタル表」にとじており、スタッフ全員が目をおしやすい環境となっている。毎月のミーティングの前にスタッフの意見の聞き取りも行い、ミーティングの内容をもとにケアマネージャーがモニタリング総括表を作成している。ケアマネージャーが「ケース記録」の記入の仕方について研修を行うことで、言葉の使い方が変わり、本人の表情や会話のやりとりの記載が増えた。スタッフ全員がプランを意識してケアをしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録を作成し、出勤した職員は必ず確認している。気づいた点等は口頭や申し送りノートにて報告・連絡・相談し、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの運営規定に基づく中で、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの依頼を少しずつ増やしている。また町会への入会を検討している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携についてご本人、ご家族に理解をいただいた上で、内科・皮膚科・精神科・眼科・歯科の往診を実施していただいている。	往診医が主治医となっている。その他、精神科、皮膚科、整骨院への受診は家族が同行している。往診医は月に2回、看護師は週に1回訪問している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療・介護に同席し、情報や気づきを適切に伝えている。特変があれば、電話にて指示を仰いだり、臨時往診をしていただける体制となっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会やご家族への電話連絡にて、情報交換を行っている。介護サマリー等の入院時に必要な書類をスムーズに提出している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応指針を示し、内容を十分に理解していただいた上で契約を結んでいる。	入所時に重度化における対応指針を説明しているが、実際には看取りの経験はない。看取り介護の開始に当たっては、本人や家族に事前に説明し、別紙同意書で同意を得ることにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示や施設内研修により、急変や事故発生時の対応に備えているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、その内1回は夜間想定としている。緊急連絡網を作成しており、職員への連絡が可能である他、町内会長との協力体制を築いている。	新人職員には消火に関するレクチャーを行い、避難経路や避難方法を伝えている。近隣に住む職員3名が10分以内に駆けつけることが可能となっている。	全職員が避難訓練を体験し習熟できるよう、特に夜勤対象職員全員が避難誘導を体験できるよう夜間想定での避難訓練を工夫して行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	半数の職員は自覚し尊重した言葉づかい、行動をしている。経験年数の少ない職員や不十分な者へは都度面談や指導を行い改善をしています。	職員には、思いやりをもった言葉かけとなるよう、発言する前に頭で一度考えてから言葉にするように伝えている。同じ行動を繰り返す方には、既に取り組まれていることをやさしく伝えられるよう言葉かけを工夫している。携帯電話を使用する方や、居室で子機を使用しお話する方もいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックにならない様、選択肢を多くしています。自身の想いを現せない方に対しては思いをくみ取る様心掛けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを観たい人、ラジオを聞きたい人、新聞を読みたい人と個人のリクエストを尊重しています。飲食物に於いても同様です。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り衣類の購入は、利用者様と店舗に出向き選ぶ楽しみを提供しています。利用者様には大変喜ばれています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に一度以上は利用者様と調理したり、下準備を行っています。片付けは8割の利用者様が積極的にされています。	入居者はテーブル拭き、下膳、食器拭きを行っている。お花見でのお団子、出前のお寿司や敬老会での懐石弁当など行事食もある。調理レクとおやつレクがそれぞれ月に2回あり、餃子、焼うどん、稲荷寿司、柏餅、桜餅、ホットケーキ、白玉などを作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示の元、出来る限り職員が介入しています。食事時間に制約を付けず、その人のペースで飲食できる様支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科医師が訪れるたびに、口腔ケアが良くできているとお褒めの言葉を頂いています。口腔ケアの大事さを認識している職員が多く居ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄感の薄い方に対しては、時間を決めて誘導をすることを徹底しています。排泄がなくても清拭を行うなどして衛生を保持するよう努めています。	リハパンから布パンツに改善した方が3名いる。アセスメントにより時間でのトイレ誘導と声掛けをなくし自立に向かった方もいる。立位が不安定であってもトイレでの排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量を前年より増やしています。水分を増やしたり、お粥を提供したりと、利用者様の体調を考慮しての対応をしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間を遅らせる事により以前より慌ただしさが無くなったのではないかと考えられます。入浴は週7日体制に変更しています。	1階はADL低下した方も入りやすいチェア浴、2階は一般浴となっている。週2回以上入浴し、冬場は入浴剤を使用する頻度も高い。入浴中にお話を楽しむことが多く、お気に入りのシャンプーを使う方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は活動していただき、夜間は熟睡出来るように日中の過ごし方を工夫するようにしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活に著しい変化がある場合は直ぐに主治医と連絡をとり、指示や処方の変更をお願いしています。誰が何の薬を服薬しているかファイルを見て勉強しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	向き不向き、得手苦手を見極めて、押し売りにならないようにレクや家事手伝いを行っています。皆様が得意分野を發揮できる様努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様や職員と散歩や買い物・食事にリクエストがある時は対応しています。地域の方々との交流は現在無く、これからの課題となります。	お花見と個別の買物レクに出かけた。毎週土曜日、家族とともに公民館のコーラスに参加している方がいる。親族の法要のための外泊や、日帰り温泉、散歩など家族対応の外出が多くなっている。	スタッフの人数が充足すれば日々の散歩も可能とのことなので、職員を充足しまた、職員同士協力し合って外出の機会を増やしていくよう工夫されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の理解度や希望に沿って支援をしています。持ち合わせの少ない方が多く、使う事の支援は難しい面があります。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯をお持ちになられている方もいらっしゃいます。可能な限りリクエストには応えています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに掲示物を新調したり、お花を活けたりと工夫し、清掃も細目に行っています。昨年より、お香を焚いたりとアロマを楽しむ取り組みもしています。	各トイレ、浴室、脱衣所はオンコールが可能となっている。ご家族が持参される季節のお花が活けてあり、掛け軸も季節ごとに替えている。お香の良い香りでリラックスすることができる。トイレのドアの開閉音をおさえるためにクッション材をつけて対応している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現状では独りになれる空間は無いに等しいですが、ソファであったり職員用のテーブルに移動されれば確保できる状況です。パーティションを設ける等の案は出ていますが空間的に難しいです。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族、職員も交えて現在の状況に合わせた物や配置の工夫を必要があれば行っています。	エアコン、クローゼット、ベッド、カーテン、オンコール完備。仏壇、大型テレビ、タンス、いす、ぬいぐるみや日本人形などを持参している。居室は支援のもと入居者が掃除機掛けをしている。動線に配慮しADL低下の方には家具でつかまり歩きができるよう居室での安全にも配慮し、配置を変更している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に難がある方も居れば車椅子の方も同居しています。また、トイレ等の場所の理解も人それぞれですので導線や案内を工夫をその都度行っています。		